



いにしへの 火山の恵み あつき雪
いかして築く 歴史と暮らし

ゆざわジオパークのストーリー【ジオモン探しへ】

さあ、みんなでゆざわの见えない火山とジオモンたちを探しに出かけましょう。

TEL0183-55-8195 FAX0183-79-5057



ゆざわジオパークへジオモンを探しに行こう！



湯沢市シオパーク推進協議会

ゆざわジオパーク

秋田県湯沢市は、県の最南東部にあり、山形・宮城の両県に隣接しています。直線距離で秋田市まで約70km、盛岡市まで約80km、仙台市まで約95km、山形市まで約95kmあり、東北地方の真ん中にあります。

ジオパークの見所である「ジオサイト」が市の全体に広く点在しているので、湯沢市全部が「ゆざわジオパーク」になっており、面積は790.91km²もあります。

ゆざわジオパークを流れる川沿いには豊かな水田が広がり、山に足を踏み入ると雄大な自然林が迎えてくれるほか、湯量が豊富な温泉地も点在しています。

四季折々で表情を変えるゆざわジオパークを巡って、大地のひみつを探してみよう！



ゆざわジオパークを
PRするためのロゴマークと
キャラクター「しず小町」です。



日本のジオパーク

2025年10月現在、48
地域の日本ジオパークが
日本ジオパーク委員会に
よって認定されています。
そのうちの10地域が、ユ
ネスコ世界ジオパークと
して認定されています。

ゆざわ
秋田県湯沢市

湯沢市への交通アクセス



ジオパークって何だろう？

ジオパークって、どんなところか、みなさん知っていますか？
これから、しず小岡にくわしく説明してもらいましょう。



Q1 ジオパークって、何をするとところ？

A1

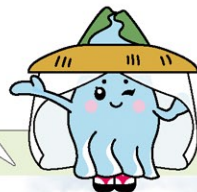
「ジオパーク(GeoPark)」は、地球や大地という意味の「ジオ(Geo)」と公園という意味の「パーク(Park)」から作られた言葉です。

では、ジオパークって、何をするとところなのでしょうか？

今、私たちが生活している湯沢市の大地は、昨日今日出来たものではありません。気の遠くなるような長い年月をかけて作られ、今、私たちの足元に存在しています。

今、あなたが踏みしめている大地は、よその大地と同じだと思かもしれませんが、それぞれ成り立ちが違います。「あなた」という人が、この世界に一人しかいないのと同じように、「湯沢市」も世界に一つだけしかありません。

ゆざわジオパークは、そんな世界に一つだけの場所が、どのようにして作られ、私たちの毎日の生活や今までの歴史、文化にどんな影響を与えているのか、五感(見る・聞く・触る・味わう・嗅ぐ)を全部使って、楽しく学ぶ場所です。



Q2 ジオパークで大事なことは何？

A2

ジオパークで大事なことは、ジオパークの言葉の意味を知ることではなく、実際にジオパークに足を運んで、そこでいろいろな体験をしたり、いろいろな人のお話を聞くことです。

ジオパークは地球科学を基礎とする活動なので、お話の中に難しい言葉が出てくることもあって、苦手に思うかもしれませんが、面白そうだなと思うところがあるはずですので、そこから楽しみましょう。

ジオパークを知ると、自分のふるさととの大地とその大地の上で育まれた人々の暮らしや伝統、文化などの良いところを再発見することができ、今まで以上に、自分のふるさとが好きになります。



ふるさととのことが好きになれば、よその人に自慢したくなります。ジオパークは、日本だけの取り組みではなく、世界中で行われている取り組みですので、世界中の人に、ふるさととのすばらしさを発信する語り部になることができます。そうすれば、毎日がドキドキ、ワクワクの連続です。



Q3 ゆざわジオパークでは、どんなものを見ることができるの？

A3

ゆざわジオパークでは、およそ9,700万年前にアジア大陸の地下で花こう岩が出来た時代から1万年前～現在の水の力で地形が変わった時代までの地球の動きの歴史を見ることができます。

次のページからは、ゆざわジオパークのお話をジオモンたちと一緒に紹介しています！



① 火山の恵みの物語

鉱山の繁栄によって築かれた近代のゆざわ。そして、豊かな地熱資源を活用して未来に歩むゆざわの物語です。



昔、ゆざわにあった鉱山の話



ゆざわのまちは、鉱山と一緒に大きくなってきたと言っても言い過ぎではありません。

昔、銀の生産量が日本一になったことがある院内銀山など、多くの鉱山の存在がゆざわの歴史と産業を形作ってきました。

残念ながら、鉱山は1960年代までで、すべて閉山されてしまいましたが、それまで存在した鉱山が築き上げた物語がゆざわジオパーク内にたくさん残っていますし、鉱山に関するジオモンもいるので、探してみましょう。



火山が生んだゆざわの石材～院内石～

ゆざわジオパークには、火山が生んだ優れた石材として、院内石があります。この石は、火山活動で噴出した火山灰などが降り積もってきたものです。

院内石は、耐火・耐水・耐圧に優れていて、地震の揺れにも強い石材と言われています。

院内銀山が栄えた江戸時代に銀の精錬所や溶鉱炉など、いろいろな建設物に使われたそうです。現在でも酒蔵や石塀、門など、身近な建物に使われている様子を見ることができます。

最盛期には、院内で7軒の石材店が採石や加工を行っており、地元だけではなく、青森県や山形県にも販売していました。

現在、院内石は採石されていますが、採石場跡地を地元の人が整備して、見学できるようになっています。



ゆざわの未来を支える地熱エネルギー

ゆざわジオパークは、地熱資源に恵まれた場所で、小安峡大噴湯や川原毛地獄など大地の活かな息吹を感じさせる見どころがたくさんあります。

大昔の火山活動の残り火とも言える地下深くにある高温の岩と、雨や雪などでもたらされる豊かな水が出会うことで、温泉などの地熱資源が生まれます。

ゆざわジオパークでは、地下にある高温の水蒸気を使って発電する地熱発電所が2か所ありますが、3つ目や4つ目の地熱発電所を作ろうとする動きがあります。これは、ゆざわジオパークが持っている地熱資源の量が、日本でもトップクラスだからです。

ゆざわジオパークでの地熱の活用は、電気を作るだけではなく、温泉の熱を使って乾燥野菜を作ったり、花や野菜を育てています。

この豊富な地熱資源を今よりもっと活用して、ゆざわジオパークをもっと元気にしていきます。



② あつき雪の物語

豪雪地域にあり、雪や水の恵みを受けて暮らしてきたゆざわの姿を見ていきましょう。



ゆざわの四季の話



ゆざわジオパークは、四季の変化がはっきりした地域で、特に冬に降る大量の雪は、ゆざわジオパークを特徴づけるものです。ゆざわに1年間に降る雪の量は、市街地でおおよそ500cmにもなり、山間部ではそれ以上降ります。ゆざわに住む人たちは、そんな厳しい環境の中でも、自然と上手につきあひながら生活してきました。

冬に降る大量の雪がゆざわの気候の大きな特徴ですが、春・夏・秋の変化も非常にはっきりしています。

雪がとける時期には、木々から芽がいつせいに顔をだし、野山の花々もいつせいに咲き始めます。夏になれば、気温が30℃以上の真夏日が続きます。これは、ゆざわが山に取り囲まれているため、奥羽山脈から降りてきた暖かい空気がとどまるためだと考えられています。暑い夏が過ぎると、水田が黄金色に変わり、実りの秋を迎えます。10月を迎えると、山の高い部分から順に、あざやかな紅葉が始まります。紅葉を見せた木々は、ひと月ほどで葉を落とし、長く厳しい冬への準備を始めます。こうして再び雪が降り始め、「あつき雪」となってゆざわの冬を白く染めます。



豊富な湧水の話

冬の豪雪は季節が春へ向かうと、恵みの水へと変わります。

ゆざわには、「雄物川」をはじめとする4つの大きな河川が流れています。支流を含めたこれらの河川のすべてがゆざわジオパーク内に源流をもち、源流部は水量豊富な溪流となっています。

加えて、市内の各地から湧水が湧き出しており、名前のある湧水地だけでもおよそ30か所あります。美しい水の流れとともに生活し、水量豊富な地域ならではの産業が営まれています。



豊かな水が支える地場産業の話

ゆざわジオパークには、清酒や稲庭うどんといった地場産業が盛んですが、これらにも豊かな水がかかわっています。

豊かな水が生み出した地場産業の代表として酒造業があり、ゆざわにはたくさんの酒造会社や酒蔵を見ることができます。ゆざわが酒どころになった理由には、水が豊富なことはもちろんですが、酒造りに欠かせない酒米が生産されていたことや大きな消費地があったことなど、いくつかの理由があります。

全国的に名前が知られているうどんの一つである稲庭うどんは、ゆざわの地場産業の一つで、原料は、小麦粉・塩・水だけで、すべて手作業で作られています。この稲庭うどんを支えているのは、ゆざわの豊かな水ときれいな空気です。



③ 歴史と暮らしの物語

いにしへの火山の恵みとあつき雪がもたらす豊かな水を活用して生活してきたゆざわの人々の歴史を見てみましょう。



ゆざわの歴史

ゆざわには縄文時代の遺跡が多く残っているので、この頃から人が生活していたと考えられます。洞窟や川の近くに住み、川の魚や山のクリやクルミ、山菜などを食べて生活していたようです。

鎌倉・室町時代にゆざわを含む秋田県南部一帯を支配していたのは、小野寺氏でした。小野寺氏は、ゆざわの稲庭地区に城を構えていましたが、小野寺氏とかかわりが深いと考えられている伝統工芸品が川連漆器(かわつらしき)で、武器にうるしをぬったことから、技術が広がったと伝えられています。

小野寺氏の後に秋田をおさめたのは、佐竹氏でした。佐竹氏は、水田や森林の開発とともに鉱山の開発を積極的におこなったそうで、銀の生産量日本になったこともある院内銀山を直接運営していました。



雪国の暮らし



ゆざわでは、「災害」と言われるほどの大量の雪が降りますが、ゆざわの人々は、雪と付き合って生活しています。その中で、雪と関係する様々な文化が生まれました。

たとえば、雪の積もった真っ白な田んぼの中にわらを植える「雪中田植え」という行事があります。これは、実った稲に見立てたわらを田んぼに実らせることで、秋の豊作を祈る行事です。

雪のお祭りとして、毎年2月に「犬っこまつり」が開催されます。会場には、雪で作られたお堂や犬の像が立ち並び、愛犬祈願祭などが行われます。



ゆざわの伝説

ほかの地域と同じように、ゆざわにも多くの伝説があります。その中でもゆざわの多くの人が知っているのが小野小町の伝説です。

平安時代の女流歌人である小野小町の伝説は全国各地に残っていますが、ゆざわの伝説の特徴は、小野小町が誕生し、成長した後に京都へ行き、その後故郷のゆざわに戻り、92歳で亡くなるまでの話が残っていることと、伝説にかかわる場所があることです。



このパンフレットを読んで、ゆざわジオパークに興味があれば、ぜひ現地に出かけて、ジオモンを探してみよう！

ゆざわジオパーク 探検 モデル コース

ゆざわジオパークよくばりコース

院内銀山異人館

院内銀山跡

川原毛地獄

湯沢市郷土学習資料展示施設

力 水

両関酒造の木造建築

小安峽大噴湯



ジオガイドおすすめコース

三途川溪谷で地層観察

十王堂

川原毛地獄散策

川原毛大湯滝



ジオガイドと一緒にジオモンを探そう！



ジオモンたちは、ゆざわジオパークの秘密をたくさん知っていますが、残念ながら人間の言葉を話すことができません。ジオモンたちの話をみなさんに伝えてくれるのが、ジオガイドです。

ジオガイドと一緒にゆざわジオパークを探検して、自分の五感をしっかり使って、ジオモンたちの秘密を探しましょう！



ジオパークを
もっと詳しく！

ジオガイド依頼先

ゆざわジオパークガイドの会

電話：0183-56-6226

メール：yuzawageoguide@yutopia.or.jp

ゆざわジオパークに関する情報は、
「ゆざわジオパーク公式ウェブサイト」
<https://www.yuzawageopark.com>
日本のジオパークについて知りたい場合は、
「日本ジオパークネットワーク」
<https://www.geopark.jp>